

第5回 観音寺市民会館管理運営検討委員会議事録【要約】		日時	平成25年9月25日(水)19:00~21:00
		場所	働く女性の家1階 談話室
出席者	委員9名(欠席2)、事務局5名、事務局補2名		
議題	(1)第4回観音寺市民会館管理運営検討委員会 会議録について (2)事業計画について (3)その他		
<p>1. 開会 開会のあいさつ。</p> <p>2. 委員長あいさつ 委員長あいさつ。</p> <p>3. 議題</p> <p>(1)第4回観音寺市民会館管理運営検討委員会会議録について 資料を元に会議録について説明。修正内容を確認の後、内容を承認。</p> <p>(2)事業計画について</p> <p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会において、積極的に展開していくべき事業として次世代を担う若年層を対象とした人材の育成、更に現在市内で文化芸術活動を行っている団体・個人の支援、観音寺市はもちろんのこと近隣を視野に入れた文化芸術に関する情報の収集と発信、鑑賞事業や交流事業も同時に進めて行くというような意見を頂いた。本日は、それに伴い、直近の課題となるプレオープニング事業(以下プレ事業)、開館記念式典、開館記念事業についてご意見を頂きたい。 <p>資料を元にプレ事業について説明。</p> <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、プレ事業の開始時期についてご意見はないか。 <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の外から建物の外観が見えるようになるのはいつ頃なのだろうか。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮囲いの上から構築物が見えるようになるのは、着工から約半年後だろう。 ・工期は17カ月~19カ月を見込んでいる。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ、建設予定敷地は商店街に囲まれているので道からは見えにくい可能性もある。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こういった建築工事の工期もプレ事業を開始する目安になるのではないか。 <p>【事務局説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この新市民会館ではいつから予約を受付けるのか明確になっていないが、一般的には開館の1年前から予約受付を始めるケースが多い。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それならば、プレ事業の開始は1年よりもう少し早くてもいいように思う。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレ事業を1年前から開始するためには、それ以前から準備をする必要がある。 ・また、もし1年前から受付を開始するならば、受付窓口やホームページなども完成していなければならないのではないか。 <p>【事務局意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに関しては、建築事務所が作成した完成予想イメージ画像などを用いてつくる例もある。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに開館予定日なども合わせて記載するなど考えられるだろう。 <p>【事務局意見】</p>			

・プレ事業の開始時期に関しては、1年前という意見が多いが、概ねそのあたりが妥当だという意見でよいか。

【委員意見】

・2年前では早すぎる。

【委員意見】

・今の話を聞くと1年前では遅いと感じる。

【委員意見】

・事業を行うのは1年前とし、準備はもう少し早くということだろう。

【事務局意見】

・全ての事業を同時に行う必要はなく、仮囲いを利用した広報を兼ねたイベントを実施したり、各所で様々なワークショップを開催するなど、1年の間に段階的に継続して事業を行う方法もある。

【委員意見】

・建設予定敷地は立地的に仮囲いが見えにくいので、何か広報活動を行うならば商店街と協力したほうがいい。

【事務局意見】

・建設業者と連携し、工事現場の見学を行うという事業もある。

【委員意見】

・建設予定地で事業を行えばよいが、もし行えないのであれば近隣の施設を利用するとよいのではないかと。

・今年の4月に高松国分寺ホールが開館したのだが、そこではいろいろなイベントと協賛することにより知名度をあげていた。実際に何か事業をするわけではないが、メディアを上手に利用することで、より効果的に開館を周知することができるのではないかと。

【事務局意見】

・他の文化施設に概要版のパンフレットを設置するというのも有効だ。

【委員意見】

・完成後のイメージ図は出来あがっているので、それを掲載したパンフレットがあるだけでも効果的だろう。

【委員意見】

・ここは西讃の端なのでインパクトがなければ目立たないだろう。

【委員意見】

・本格的な音楽の小ホールが完成するというのは、かなりのインパクト・強みになると思う。

【委員意見】

・確かにそういったホールは近隣にはない。

【委員意見】

・香川県芸術祭に参加する場合、特に金銭的な援助などはないが、事業名をパンフレットに載せて頂けるし、年間のイベントを一覧にしたリーフレットも作成する。それらは香川県の関係施設に配布されることになるのでこれを活用する方法も考えられる。

【委員意見】

・プレ事業の内容は今後具体的にしていけるとし、開始時期は開館の1年前がよいだろう。

・その場合、来年度の平成26年度には各方面と協議し準備を行う必要がある。

【事務局意見】

・時間軸としては、平成26年度から準備を始め、平成27年度から本格的にプレ事業を行っていくことが望ましいということか。

【委員意見】

・それを実行するためには、中心となって運営していく人や組織が必要になる。中心となる人材、もしくは中心となる人材を育成し、その人たちと一緒にスタートを切ることが重要だと思う。

【委員意見】

・市に担当部署ができるのは平成 27 年度と聞いている。

【事務局回答】

・来年度の平成 26 年度に開館へ向け窓口や担当が設置される。

【委員意見】

・準備をする人ではなく実際に運営してく人たちの芯が必要なのではないか。

【事務局回答】

・今は管理運営を直営にするのか指定管理にするのか未定な段階だ。もし直営であれば市が中心に行っていくことになり、指定管理になったとしても必ず市の職員と一緒に運営を行う。いずれにせよ市において中心となる人材は配置する予定だ。

【委員質問】

・直営か指定管理かということは議会在議決することなのか。

【事務局回答】

・庁内では副市長を委員長とした職員 20 数名の庁内検討委員会が進んでいる。庁内検討委員会と本委員会で検討した結果を踏まえ方向性を決めることになる。議会の承認事項ではないが、相談する必要はある。

【事務局意見】

・プレ事業の実施については、運営に関わるスタッフも一緒に行っていくべきという内容も踏まえ整理していきたいと思う。

【事務局質問】

・市民ミュージカルが企画されているとお伺いしたのだがその内容についてお聞きしたい。

【委員回答】

・最初 30 名スタッフを募集し、10 日ほど前に第 1 回の説明会を行った。商店街の外郭団体である Re:born.K が窓口となっている。香川県から予算をもらっている。NPO 団体と協力して脚本から舞台装置まで市民でやろうという企画だ。30 名のスタッフが核になり運営していく予定だ。平成 26 年 2 月末か 3 月上旬頃に、観音寺信用金庫の 6 階会議室で行うことを計画している。本当は商店街の路上でも考えたがそれは難しいということになった。

【事務局質問】

・その活動は 1 回限りのものなのか。それとも継続的に毎年行うものなのか。

【委員回答】

・現段階では 1 回限りだが予算が付けば継続的に行うこともできる。

【委員意見】

・市民会館でも幼稚園と一緒に作るミュージカルを行っている。

【事務局意見】

・前回の自主事業に関する議論でも地元で文化芸術活動をしている団体や個人との連携や支援を継続的にしていくことを事業の柱のひとつにしようという意見もあった。プレ事業の期間から関係性を築いていく必要がある。

【委員質問】

・工事期間中に体育館は使えるのか。

【事務局回答】

・体育館でも各種工事が行われるため使用することはできない。

【事務局意見】

・これまでの話を伺う限りでは、特定の場所だけではなく、いろいろな場所で事業を展開する方向を目指したほうがよいのではないか。

【事務局質問】

・商店街の方から新市民会館について何か意見が出ているのだろうか。

【委員回答】

・将来的には出てくるとは思うが現在はそれほど聞かない。

【事務局意見】

・文化芸術活動を行っている団体や個人はもちろんのこと、商店街の方ともなるべく早い段階で協力できる関係性を築くことも重要だと考える。

【委員意見】

・先日、最後だからということでふれあい夜市を観音寺南小学校の体育館で行った。こういった形でも協力できると思う。

【委員意見】

・自分たちの団体の事業計画を組まなければならないので可能な限り早く具体的に事業などが決まればと思う。本番や練習の期間など細かい計画は大きな企画であれば2年くらいのスパンが欲しい。特にこれまで市民会館を利用していた団体は気にしている。来年度はもっと具体的な話ができるようにならなければ、参加したくても参加できないこともあるかもしれない。例えば、以前第9のコンサートを行ったときも、自分たちの定期演奏会とかぶったりする。外から大きなものを呼んでくる場合は、既に会場がおさえられている場合がある。

【委員意見】

・スタッフも早くから慣れておかねばならないだろう。

【委員意見】

・スタッフを業者に委託するのであれば、慣れた人がくるのだが市の職員や市民もやるとなれば訓練が必要になる。

【事務局意見】

・平成28年度は合併10周年にもあたる。

【委員意見】

・それを考えると大きなイベントになるのではないか。

【事務局意見】

・それも念頭において動いていきたいと考えている。

【委員意見】

・会館の運営に関わるスタッフの育成の場となるようなイベントにしなければならないだろう。平成28年度の開館以降どういった事業をどのくらい行うかという計画を早急に立てる必要があるのではないか。

【委員意見】

・そういった意味では実行委員会を立ちあげ、運営を考える人やプログラムなどを組むなど役割分担をし、並行して進めていかなければ時間がないのではないか。

【事務局意見】

・実行委員会を立ちあげるためにもノウハウが必要になる。そのノウハウを知るためのワークショップを経て流れをつくるということも考えられるだろう。

【委員意見】

・市として、観音寺市や周辺の自治体の中で文化活動を行っている団体や個人のデータベースを作成し状況を把握する必要があるのではないか。自主的に参加する場合や参加を募集する場合、協力してもらった場合などそういったデータベースがあればやりやすいのではないか。

【事務局意見】

・文化協会関連に加盟している方に関してはある程度把握できているが、加盟していない団体や個人に関しては把握しきれていないのが現状であるため、今後収集の必要があるのではと考えている。

【委員意見】

・新市民会館が開館するという気分を盛り上げる・知ってもらおうという意味では、既存の事業と連携することも重要だが、新しい事業も必要だ。そのためにも主体がどうなるかは別

問題として、ニーズの把握や既存団体と連携を図りブレ事業を進めていくための中心となる組織として実行委員会が必要なのではないか。

【事務局説明】

資料を元に開館記念式典について説明。

【委員意見】

- ・国際音楽フェスティバルのような方法がよいと思う。演奏して頂くだけでなくワークショップのようなことを行ない、地元の方と一緒にステージをつくるというイベントもよいだろう。

【事務局意見】

- ・開館記念式典のひとつの事業として、有名な指揮者を招いて市内の楽団員と一緒に作品を作り上げるということも考えられる。

【委員意見】

- ・多くの人に来てもらうためには、いろいろな人をターゲットとした事業があるほうがよい。一日のなかに、伝統芸能だけでなく、オーケストラや子どもも楽しめる事業があるとよい。

【事務局意見】

- ・そういったものは開館記念式典というより開館記念事業として考えるほうがよいのではないか。式典になると客席数に限りがあるため、多くの市民が参加できない可能性がある。

【委員意見】

- ・式典では来賓のあいさつや伝統芸能の上演を行ない、午後やその後の1日、2日に渡って開館記念事業を行うというのがよいのではないか。

【委員意見】

- ・いずれにせよ式典は必ず行うことになるだろう。ただ、式典だけでは淋しいので開館記念事業は必要だ。

【事務局説明】

資料を元に開館記念事業について説明。

【委員意見】

- ・集客を狙うならばNHKのど自慢などをやってみるのもよいのではないか。

【委員意見】

- ・開館記念ということであればNHKが来てくれる可能性はある。その他としては、おかあさんといっしょなどもある。

【委員意見】

- ・そのためにも市の担当を配置し、実行委員会を立ち上げるなど早くから動きはじめなければならぬだろう。

【委員意見】

- ・全国ネットのメディアで取り上げられるというのは地元においても非常に注目度が高い。早めにコンタクトしていけば実現できる可能性はある。

【委員意見】

- ・芸術監督や指揮者がいるような専門的な演目を観音寺市くらいの人口規模の都市で上演して集客がみこめるかどうか想像がつかない。

【委員意見】

- ・他の施設ではコスチュームプレイなどが流行っているようで、3000人近く集まる企画もあると聞く。

【委員意見】

- ・同時に、基本方針のひとつである地域の文化活動の拠点となりそれを育むという柱を具現化していくことも必要だ。オープニングではニュース性のある派手な事業をおこない情報を発信していくことも重要だが、それと日常生活や活動は冷静に分けて考えなければならぬ。地域で独自で活動してきた団体や個人を市民会館に呼び戻すという地道な活動も

必要だと考える。

【事務局意見】

- ・打ち上げ花火のような事業だけでなくしっかりと市民会館の設置目的や理念を伝えていく事業も必要だ。それらは単発で終わるのではなく、継続される事業として開館記念事業の中に盛り込んでいくべきだろう。

【委員意見】

- ・オープニングのお祭りだけに参加する人だけでなく、継続的に市民会館を使っていきたいという意思を持って日常的に活動している個人や団体をまきこんでいくことで、市民会館を常に人が集う場にするという目標を達成することに繋がるのではないか。

【事務局意見】

- ・確かに開館記念事業の議論では往々にして打ち上げ花火のような事業にばかりに話が集中し、本質的なところの議論にいかないことが多いが、今の発言にあるようにこの施設をなぜ整備するのかという所に立ち返って事業を組み立てていくというのは非常に重要だ。

【委員意見】

- ・プレ事業の時から広報宣伝に力をいれていく必要がある。

【事務局意見】

- ・話をお伺いしていると実行委員会というよりも、施設がこれから愛されて使い続けていってもらえるように市民が応援していくような意識を持ったサポーターズクラブの基礎的な部分をつくりあげていく必要があると感じる。

【委員意見】

- ・実行委員会になると企画に重点がおかれてしまう。

【事務局意見】

- ・実行委員会となると、あるひとつの事業を実施するための組織になるが、サポーターズクラブはもう少し広く継続的に会館を応援していく組織というイメージだ。

(3) その他

【事務局説明】

- ・次回は広い意味での広報活動について、貸館についての議論をおこないたいと考えている。

【委員意見】

- ・おそらく市民がこういった形で関わっていくかが市民会館の今後を決めていくと思う。

【事務局意見】

- ・今後、市民参画について協議する場があるので、その時に議論を行いたい。

【事務局回答】

- ・第6回検討員会については、10月22日(火)19時から働く女性の家1階談話室で開催を予定している。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上